【トランク】

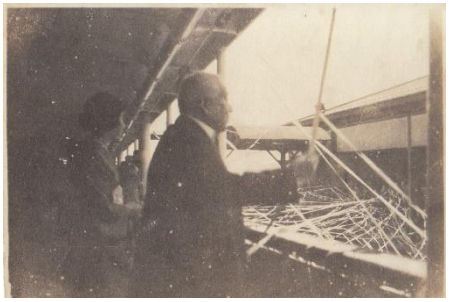
寒さの中にも春の足音が聞こえ始め、進学・就職といった新生活や旅行などで移動する機会が増えてくるこの時期。皆さんはどのような鞄を使用しますか？最近では、軽量で持ち運びやすい形状の鞄類が主流でしょうか。旅の主体が列車と船であった時代には、耐久性と堅牢性を兼ね備えたトランクの需要が多くありました。

今回ご紹介する“イッピン”は、夫妻が使用した「トランク」です。

昭和２（1927）年、實はスイス・ジュネーブで開催された海軍軍縮会議に日本全権として出席するため、春子夫人を伴い渡欧します。朝鮮総督在任のまま赴き、補助艦の制限に関する話し合いがなされました。４月 22 日に東京駅を出発後、神戸まで列車で移動、神戸港で汽船「阿波丸」に乗船します。「子爵齋藤實傳　第三巻」によると、東京駅では井上良馨（よしか）・東郷平八郎両元帥をはじめ海軍、政府、朝鮮総督府の関係者など 500 人以上の見送りを受け、神戸港はさらにそれを上回る人々で埋めつくされたということです。

当館には、夫妻が使用した 19 個のトランクが収蔵されています。その中でも『 M・S 』（實・斎藤）とイニシャルが記され、夫妻が乗船した日本郵船会社の汽船名「AWAMARU」と英字表記されたステッカーが貼られている、このジュネーブへの旅路で使用されたトランクは、片道約 50 日間の船旅に合わせた容量の大きさと重厚感に満ちた迫力のあるものです。

２月 26 日（水）から６月１日（日）まで、当館２階北側展示場で開催する企画展「『斎藤夫妻の旅物語』～ともに旅したトランクたち～」では、このトランクを含め 14 種類の様々なトランク、旅の行程、船内メニュー等を展示紹介します。また、３月８日（土）には午後１時 30 分より当館学芸調査員による企画展解説会を開催しますので、ぜひ足をお運びください。



神戸港で見送りを受ける夫妻と詰めかけた人々の様子

縦 56×横 107×高さ 38（㎝）と大型のトランク

「AWAMARU」と記されたステッカー